

史料群番号 43

史料群名	はまなぶとぎよぎょうくみあい <b>浜波太漁業組合文書</b>		旧所蔵者	太海漁業協同組合
探訪時住所	千葉県安房郡太海村天面			
現在の住所	千葉県鴨川市天面			
探訪年月	昭和24（1949）年12月			
史料の年代	文化5（1808）年～昭和4（1929）年	史料の 総点数	1930点	
年代の内訳	近世 8点/近代1922点	筆写稿本	あり	
既刊行目録	「1950年3月 漁業制度資料目録 第1集 全国篇Ⅰ 日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」「平成十六年 水産総合研究センター所蔵古文書目録-浜波太漁業組合文書（千葉県鴨川市）- 水産総合研究センター・神奈川大学 日本常民文化研究所」「平成十八年三月 水産総合研究センター古文書目録 -福島県、茨城県、栃木県、千葉県関係史料- 水産総合研究センター・神奈川大学人常民文化研究所」)			

収蔵にいたる経緯

本史料群は太海漁業協同組合によって寄贈されたことが、「漁業制度資料目録 第1集」に記されている。その後水産資料館に収蔵され整理が行われた際、史料の内容が太海漁業協同組合の前進である浜波太漁業組合のものであることに鑑み、史料群名を付したものと考えられる。太海漁業協同組合は探訪時天面（あまつら）にあった。ところで、「漁業制度資料目録 第1集」に掲載されている、明治前半期の係争事件に関連した史料など凡そ20数点が、現在中央水産研究所に所蔵されていない。そのうちの8点は平成16年、神奈川大学日本常民文化研究所で所在が確認されたが、残る史料は依然として所在不明である。詳細は上記「既刊行目録」欄の水産総合研究センター所蔵古文書目録を参照していただきたい。

史料群の概要

探訪地の太海村は、明治22年に長狭郡浜波太村を含めた6ヶ村が合併して成立した。浜波太村は、近世の初期に隣村の岡波太（おかなぶと）から分かれて成立している。太海村は昭和30年に江見村に合併するが、昭和46年に鴨川市の大字となる。

近世から昭和にいたる、近世村落を単位とした漁業組合に伝来した史料群である。一部、近世期の村方史料が含まれており、これは明治期の漁業組合が近世の村を単位に成立していることに基づいている。浜波太漁業組合は明治36年に成立し、地先専用漁業権が成立した。

なお、近世から近代戦前期まで、浜波太村と対岸の仁右衛門島との鮑の漁業権をめぐる係争事件があり、関係書類20数点が現在の所蔵史料に含まれていない。そのうち神奈川大学日本常民文化研究所に保管されていた8点は、近く中央水産研究所に移管される予定である。

